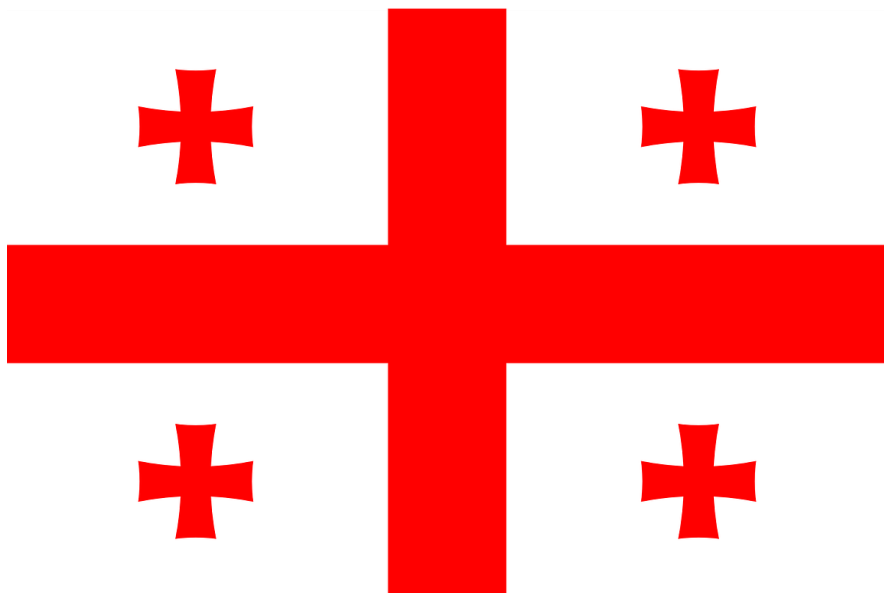


JICA 海外協力隊 赴任前留意事項



※本資料に記載の情報は、作成日現在のものであり、その後状況が変化している場合があります。記載内容については正確を期していますが、万が一誤りがあった場合には JICA は責任を負いかねますのでご了承ください。

※本資料は JICA 海外協力隊を対象としたものであり、その他の方には該当しない情報も含まれている可能性があります。

目次

1. 赴任時の携行荷物について
2. 別送荷物について
 - (1) アナカン・郵送等の利用について
 - (2) 通関情報について
3. 通信状況について
 - (1) パソコンの普及状況
 - (2) 携帯電話の普及状況
4. 現金の持ち込み等について
 - (1) 現金持込にかかる注意
 - (2) 両替状況
 - (3) 赴任時に用意することが望ましい金額について
5. 治安状況について（JICAの安全対策については、隊員ハンドブックを参照）
6. 交通事情について
7. 医療事情について
8. 任国での運転について
9. お問い合わせ
10. その他

1. 赴任時の携行荷物について

※隊員ハンドブック 3-5 出発時の注意事項を必ず確認の上、ハンドブックに記載されている「手荷物として持参するもの」に加えて、以下を持参ください。

ハンドブックのリストとあわせ、到着後の現地訓練期間に使用が想定されるものとなります。身の回り品は、ご自身でよく検討をお願いします。なお訓練中は、事務所近隣のホテルに宿泊します。

当然ですが隊員ハンドブック自体もお忘れなく!!

- ・ 海外安全対策ハンドブック
- ・ 国際協力共済会会員ハンドブック
- ・ パソコン (3. (1) 参照)
- ・ 訓練所の公式行事用に準じた服装一式 (スーツ上下・現地訓練中に任国側機関や日本大使館の表敬訪問を予定しています)
- ・ 体温計、常備薬、身の回り品
- ・ 2026年1月1日より入国時に海外旅行保険 (障害・医療保険) への加入を示す文書の提示が義務化されました。公用旅券/公用査証の保持者は免除となっておりますが、乗り継ぎ地の空港で提示を求められた事例もあるため、念のため国際協力共済会等の被保険者証の携行を推奨します。

など

(生活必需品・食材・家電製品等について)

首都トビリシには、大型スーパーやショッピングモール等も多くあり、一通りの生活必需品を購入することができます。日本食材については、米・醤油・わさび (チューブ)・海苔がスーパー等で購入可能ですが割高感があります。店舗は限られますが、アジア食材店では、味噌やパック豆腐などが販売されていることもあります。地方都市でも日用品や食料は問題なく購入できますが、日本食材は入手困難です。家電製品は、最新機能やメーカーにこだわらなければ、各種製品が入手可能です。

(衣服について)

ジョージアは日本と同じように四季があるので、東京を基準にしてオールシーズンのもを準備することをお勧めします。

首都トビリシでも、夏は40℃近くまで気温が上昇しますが、湿度の関係で日本の夏よりもいくらか過ごしやすいです。日差しが強いため帽子、サングラス、日焼け止め等の使用を推奨します。冬場もかなり気温が下がりますので、防寒用の衣類も必要です。なお、衣服や靴は、一般的なものであれば現地で購入することが可能です。価格は、ブランド等にもよりますが、特に日本より安いという印象ではありません。

2. 別送荷物について

【重要】各自での情報収集に努めてください

荷物の送付については、全世界的に提供サービスの内容や価格など、コロナ禍の影響を大きく受けて流動的な状況が続いていました。日本郵便もジョージア向け国際通常郵便物と小包の航空扱いを「差出不可」としていたため、当初隊員は船便や事前超過受託荷物等を利用していました。現時点では航空便の取り扱いが再開されており、着任隊員はじめ日本からの荷物送付に利用しています。

航空便利用例：大阪の郵便局→トビリシ郵便局 5日後に着 5.5kgの段ボール 15,600円
[国・地域別の差出可否 - 日本郵便 \(japanpost.jp\)](http://japanpost.jp)

もともと本邦からの赴任者の数も少ないジョージア支所では、現時点で確実な参考情報を提供できるだけの事例をもちあわせていません。各人で事前に関連業者や先輩隊員から情報収集を行い、経済性（送料）や利便性（日数）、確実性（破損・紛失の危険度）などを検討の上でご判断ください。別送をせずにその予算で現地調達する、着任航空便の事前超過受託荷物を申し込む、なども選択肢としてご検討ください。

（1）郵送等の利用について

本邦からの荷物送付には、国際郵便（航空便、船便）、アナカン、DHL やクロネコなどの国際宅急便等があります。各種サービスの概要・禁制品等は各自で確認してください。アナカン（Unaccompanied Luggage）とは、航空便を利用する際、超過手荷物料金より安い料金で貨物として別便または同一便で運ぶシステムです。手続きが煩雑で、手数料を払って代行業者に依頼するケースも多いです。詳しくは、取り扱い業者に各自で問い合わせてください。

何れの場合も、ご自身の荷物の引取り手数料や税金、輸送時の事故、荷物の未着等や保管中のトラブルについては自己責任となりますこと、予めご了承ください。

【別送宛先】

JICA Georgia Office
(Mr.または Ms. XXXX YYYY)
Pixel Center, 8th floor, 34 Chavchavadze Ave.,
Tbilisi 0179, Georgia

※JICA Georgia Office 宛とし、その下の（ ）内に隊員個人名（英語）を書いてください。

（2）通関情報について

政府間の取り決めにより、原則協力隊員がジョージアでの生活のために別送する荷物については免税扱いとなります。ただし

- ・包装の解かれていない新品状態のもの
- ・電化製品
- ・送付物品の価値申告額が高額の場合

等で課税された、されそうになったというケースが出ています。

スムーズな引き取りのため、申告内容は中古品とし価値を低く記載することをお薦めします。

金額目安 300GEL（ジョージアラリ）相当未満となるように記載
2025年11月 JICA 統制レート 1GEL=57.3352円
なお、保険は申告金額に対して保障されますので、保険が必要な高価な物品の送付は推奨
できません。

トビリシ空港到着時の通関については、
www.rs.ge - BorderCrossing-en
(REVENUE SERVIS のサイト) をご参照ください。

3. 通信状況について

(1) パソコンの普及状況

現地での購入も問題なくできますが、Eメールは支所や青年海外協力隊事務局との連絡手段の一つとなっておりますので、着任時のスムーズな利用開始のため、日本からの携行をお薦めします。任期中にわたって、報告書提出や各種申請などにも必要となります。

インターネットについては、すでに回線が入っている住居も多く、日本で使用しているパソコンをそのまま使用できます。費用は契約内容により異なりますが、WiFi ルーター込みで50GEL（ジョージアラリ、約2,500円）/月程度となっております。

(2) 携帯電話の普及状況

最近では固定電話よりも携帯電話が一般的です。スマートフォンとSIMカードを支所から隊員の皆さんに緊急連絡用として貸与します。日本からSIMフリーのスマートフォンを携行し、貸与されたSIMを利用することも問題ありません。何れの場合も、紛失、盗難等の事故が発生してしまうと「情報セキュリティ事案」となります。本邦で個人の端末を扱っていた時とは、保守管理に対する意識を変えていただく必要があります。

4. 現金の持ち込み等について

(1) 現金持込にかかる注意

持ち込み金額に制限はありません。ただし、GEL3万相当（USD米ドル約1万1千）を超える場合は申告が必要となり、証明書類の提出等が求められます。そもそも高額な持ち込みは推奨しませんが、申告不要範囲でご検討ください。

(2) 両替状況

空港及び市内各所に両替所があり、容易に両替が可能です。日本円の両替は、対応可能な両替商が限定的なため、米ドルもしくはユーロ現金の持ち込みをお薦めします。

(3) 赴任時に用意することが望ましい金額について

[長期隊員] USD（米ドル）3~500程度

当座の生活には300ドルあれば十分ですが（現地訓練中のホテル代は支所が支払います）、生活立ち上げに際し電化製品等をすぐに購入する考えであれば、ある程度上積みが必要です。ジョージアは、クレジットカード（VISA、Master、AMEXがメジャーです）も問題なく使えますので、安全対策上からも着任時の現金での持ち込みは最小限としてください。医療機関で、高額な治療を受ける際の支払い保証として提出を求められる場合もあることから、クレジットカードの携行を推奨します。

赴任後数日で当地銀行口座を開設でき、同時に初回の現地生活費が入金されます。

[短期隊員]

現地生活費については派遣前に支給されますので、それを米ドルやユーロ現金で持参及びクレジットカード等の支払い資金としてください。長期隊員の項に記載しましたが、多額の現金の持ち込みは避けてください。なお、派遣期間6か月以上の隊員の場合、6か月以降の日当については後日、別途支払われます。

5. 治安状況について（JICAの安全対策については、隊員ハンドブックを参照）

在ジョージア日本国大使館「ジョージア安全の手引き」2025年4月版から抜粋

ジョージア内務省が公表した統計（2024年）によると、人口当たりの一般犯罪件数は日本の約2倍で、数字上は日本と比べて極端に治安が悪い状態ではなく、海外旅行時の基本的な安全対策を行っていれば犯罪被害は防げるレベルの治安と言えます。（※ただし、警察に被害届を提出する場合、裁判に出廷することが条件とされるため、特に短期滞在の日本人旅行者の場合は時間の制約から被害届の提出をあきらめざるを得ない事例が発生しています。被害届を提出しない場合は、統計に計上されないため、統計が実態を反映していない可能性があることに留意する必要があります）

罪種別では、殺人は約2倍、強姦は約1.5倍、強盗は約9倍と凶悪犯罪の発生数は多く、刃物や銃器等の凶器が使用される事件も珍しくありません。また、日本人を含め外国人旅行者を狙った強盗や強制わいせつ、詐欺事件も度々発生しています。

◆最近の日本人の犯罪被害例

【強盗傷害】

- ・たまたま知り合った外国人をホテルの部屋に招いたところ、いきなり殴られ現金を奪われた

【ひったくり】

- ・物乞い（主に子ども）に取り囲まれ、財布などが入ったバッグを奪われた

【侵入窃盗】

- ・就寝中に自宅アパートに窃盗に入られ、貴重品を盗まれた
- ・外出中、ホテルの客室内に侵入され財布を盗まれた
- ・シェアハウスで仲良くなった他の宿泊客に所持金を持ち逃げされた

【スリ】

- ・地下鉄内で背負っていたリュックサックの中から財布、パスポートを抜き取られた
- ・スーパーで買い物中、バッグの中から紙幣在中の袋を抜き取られた

【恐喝】

- ・飲食店の裏で若者数人に囲まれ金を出すよう要求された

【強制わいせつ・強姦未遂】

- ・「宿泊先まで送る」と車に乗せてもらったところ人気のない場所に連れて行かれて性行為を強要されそうになった
- ・タクシー内で執拗に身体を触られた上、強姦されそうになった
- ・日中、人気の無い公園を散歩していたところいきなり背後から男に襲われた

【詐欺】

- ・タクシーアプリで呼んだタクシーと誤信させられ乗車したところ、到着時に高額な料金を請求された

以上の大使館資料で説明されている状況に加え、自分のホームグラウンドではない不利（知識や経験値の低さ）により、危険察知能力の低下も懸念されます。

あわせて、ジョージアではカード決済や E-commerce が増加しているため、フィッシング等の詐欺被害リスクが高まっています。残念ながら、現時点では銀行や警察の対応も後手に回っている印象です。具体的には、携帯電話への SMS、WhatsApp、E メールを通じた不審な電話やメッセージが頻繁に確認されています。郵便局をかたり荷物の配達不能通知から個人情報などを抜き取るサイトへ誘導するなど、本邦と同様の手口が協力隊員から報告されています。

赴任にあたっては、訓練中の安全対策講座の復習や「海外安全対策ハンドブック」の熟読をお願いします。その内容を踏まえ、着任後にも安全対策オリエンテーションを実施します。

デモ・抗議集会等

2024 年 4 月 8 日に「外国エージェント法案」が議会で提出されて以降、5 月 6 月にかけてトビリシ市内を中心として同法案に反対する抗議活動が連日行われ、一部で警察隊とデモ隊が衝突し、負傷者が出たり、デモ参加者が警察に拘束されたりしました。

同年 10 月 26 日には国会議員選挙が行われましたが、与党「ジョージアの夢 (GD)」が 54% の得票率と過半数の議席を得て勝利しました。しかし野党側は不正があったとして開票過程の透明性に疑問を呈したほか、サロメ・ズラビシビリ大統領も選挙結果を認めない姿勢を示しました。市民による大規模なデモと当局側との衝突により、再び多数の逮捕者が出る事態となりました。

2025 年 10 月 4 日に実施された統一地方選挙は、野党側の対応が割れ、複数の主要な野党が現政権の正当化につながるとして選挙をボイコットしたこともあり、与党の圧勝に終わりました。

そのような情勢の中、野党勢力や市民による抗議活動は強弱をつけながら継続しており、根深い不満が示唆されます。ジョージア支所では、デモや抗議集会情報の共有や自宅待機指示など、状況に応じて関係者の安全確保のための対策を実施しています。

6. 交通事情について

首都トビリシや地方都市は、バス、マルシュルートカ（乗合マイクロバス）による公共交通網が整備されています。一般的なタクシーやアプリ配車型タクシーも普及していて、トビリシには地下鉄も走っています。都市間移動については、マルシュルートカが中心です。

道路交通事情は、車両が増加していることに加え、無秩序な駐停車により都市内では渋滞の常態化が起きているところもあります。荒っぽい運転、交通ルールの不徹底などにより交通事故も多く発生しています。「歩行者優先」などの意識も運転者側にありませんので、歩行者としての自分が交通ルール・マナーを守っていれば安全が確保できるとは限りません。都市部では、コロナ禍以降フードデリバリーのバイクが増加し、歩道までも傍若無人に走行しています。トビリシやバトゥミでは、スマホアプリで利用できる乗り捨て可能な電動キックボードの利用者も増えていて、歩道でも車道でもかなりのスピードで走行しており注意が必要です。

このような状況において、交通事故にあわない、巻き込まれないためには、車両の右側通行だけではなく、様々な点で日本と大きな違いがあることを理解する必要があります。

その上で、一般的な安全対策同様、自身の危険察知能力を高めることが不可欠となります。「日本と大きな違い」については、着任後のオリエンテーションで改めて説明する予定です。

7. 医療事情について

ジョージアの気候は温暖湿潤気候ですが、冬季は空気が乾燥します。ジョージアで多い傷病は、風邪などの呼吸器感染症、胃腸炎、動物咬傷となります。ジョージアは野良犬が多く、また、狂犬病発症国となっております。動物咬傷については派遣前訓練の健康講話を良く聞き、動物咬傷に遭った場合の対処方法を理解しておくようにしてください。

また、民間病院のレベルは比較的高いといわれておりますが、日本と同じ医療が受けられるとは限りませんので、日ごろからの健康維持、病気や怪我の予防が非常に重要となります。既往症のある方については、出発前に主治医と相談をして、派遣中に気を付けなければならぬ点、受診や検査の間隔、同じ薬が入手できない場合に備え代替薬について確認しておいてください。また派遣後、掛かりつけ医が見つかるまでの当面の間に見合うだけの薬剤を処方してもらい、症状や治療方針についての英文診断書を作成してもらうなどの対応をご検討ください。特に習慣的に服用している薬剤については、任国で調達すると、名称が違う、分量が違うなどが想定されますのでご注意ください。また、気になっている症状がある場合も、同様の理由から国内で医療機関を受診し、出発前までに治療してください。歯科については虫歯の有無に係わらず、派遣前に必ず受診をし必要に応じて治療を受けるようにしてください。

風邪薬や胃腸薬、虫よけ、目薬など、一般的な薬は薬局で購入可能ですが、使い慣れたものがある方は持参されることをお勧めします。

予防接種について、訓練所での接種はないけれども推奨というワクチンもあります。健康管理室発行の「予防接種のご案内」に従って、渡航外来等の医師にご相談ください。特にジョージアでは腸チフスワクチンはありませんので、希望者は赴任前の接種を検討ください。ワクチンの流通事情および健康被害救済制度がないことから、可能な限り本邦での対応を推奨します。ジョージア国内ではワクチンの流通が不安定であることから、3回目の接種が出来ない場合がありますのでご了承ください。

心身の良好な状態の維持は、協力隊員としての義務であり、「健康管理は自己管理」です。環境が変わることによるストレスは予想以上に大きいものです。赴任前から、コンディション維持を念頭においた生活を続けるよう努めてください。

8. 任国での運転について

当国では隊員の運転（軽車両含む）を不可としています。

9. お問い合わせ

任国での活動に関する質問は、以下の支所代表アドレス宛にメールでお問い合わせください。件名に「隊次」「氏名」の明記をお願いします。

※長期隊員の方は、派遣前訓練が開始してからお問い合わせください。なお、その際には事前に訓練所担当スタッフにお声掛けください。

※活動に関わる内容以外の質問はお控えください。

10. その他

(1) 住居について

住居は、①配属先が提供する場合②民間の住宅を賃貸する場合があります。①の場合は、安全対策上に問題が無い限り配属先に一任しますが、②の場合、事務局が隊員向け住居を選定し提供します。

(2) 外食について

都市部ではジョージア料理をはじめ、中華料理、西洋料理レストランや各種ファストフード店があります。首都トビリシには、ラーメンや寿司を売り物にしたレストランも多くあります。フードデリバリーも盛んです。

(3) 電圧・プラグタイプについて

電圧は 220V、周波数は 50Hz、プラグはCタイプがほとんどです。各種プラグタイプに適合するアダプターは現地でも購入可能です。

以上